

---

# 大ドンデン返し

神村律子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大ドンデン返し

### 【Nコード】

N7170H

### 【作者名】

神村律子

### 【あらすじ】

僕は中学2年生。同学年に好きな子がいる。

僕は中学2年生。

1年の時から、好きな子がいる。

彼女とは小学校が違ったので、入学式の見かけ、一目惚れしてしまった。

しかし、残念な事にクラスは別になった。

それでも彼女の事が気になり、同じクラスの奴に用があるフリをして顔を見に行ったりした。

小学校の時から悪友には、僕の行動はわかりやすかったらしく、すぐにバレた。

随分冷やかされた。

絶対無理だからやめとけ、とも言われた。

そして、優柔不断な性格も手伝い、告白できないまま1年が過ぎた。

今年しかない。

そう思った。

3年になれば、それどころではなくなってしまう。

僕はそんな事はないと思うが、彼女は学年でトップを争う優秀な子なのだ。

僕とは違う。

来年になってしまふと遠い存在になりそうだ。

諦めかけた事もあった。

でも、何もしないで引き下がるのは、絶対に良くないとも思った。

ダメでもいいじゃん。

そう言ってくれた奴もいた。

そうだ。

断られたからって、死ぬわけじゃないし。

決断した。

ところが、だ。

彼女が避けている。

そう思えた。

僕が廊下を歩いているのを見つけると、サッとトイレに入ってしまったたり、階段を駆け下りて逃げてしまう。

何だろう？

僕、彼女に何かした？ 覚えがない。

嫌われている？

そんな……。

さすがに心が折れかけた。

そんな日が続いた。

周りの悪友達も、僕の落ち込みのように言葉もない様子で、決してその事は口にしない。

重い足取りで下校する。

あ。

少し前を彼女が歩いている。

今度こそ！

僕は走った。

彼女が角を曲がった。

僕もそれに続いた。

そして用意していた言葉を言おうと口を開いた。

「前から好きでした！ 付き合ってください！」

角を曲がったところで逆にそう言われた。

「ええ！？」

そしてやっと言えたのが、

「こゝ、こちらこそ」

僕は何か何だかわからなくなるほど嬉しかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7170h/>

---

大ドンデン返し

2010年12月15日14時37分発行